

第9回 伊賀市中心市街地活性化基本計画策定委員会 議事要旨

- 日 時 : 2024 (令和6) 年 7 月 23 日 (火) 10:00~12:00
- 場 所 : 伊賀市役所 202・203 会議室
- 出席者 : 久隆浩委員長、菊野善久副委員長、竹島博子委員、山本禎昭委員、中村忠明委員、南徹雄委員、濱津享助委員、木宮康介委員、平井俊圭委員、豊福裕二委員、濱崎久美委員、宮崎寿委員
(欠席: 福永真司委員、杉山美佐委員、竹島弘美委員、松井隆昇委員)
- 事務局 : 産業振興部 堀川部長、福山次長
中心市街地推進課 森口課長、中澤主幹、乾主任、藤山
伊賀市中心市街地活性化協議会 山崎事務局長、上野商工会議所 佐治事務局長

1. 開会

2. あいさつ

久隆浩委員長よりあいさつ

3. 協議事項

(1) 目標の設定について

- ・ 目標「歴史文化が育んだ「伊賀らしさ」を次世代に継承し、持続可能な魅力あふれる城下町」に記載されている「伊賀らしさ」について、具体的な定義がないように感じる。伊賀市民が見てもわかるよう、どこかに解説を入れる必要があるのではないか。(委員)
→ メインテーマである城下町伊賀上野の歴史文化の雰囲気はあるものの、そこを具体化したほうがよいということで理解した。表現もしくは解説については今後整理したい。(事務局)
- ・ 資料「目標の設定について」と資料「第3期計画への掲載事業(案)一覧」の内容を資料「第3期計画への掲載事業(案)目標指標別一覧」にまとめて載せた方が分かりやすい。1つの資料でまとめられるのであれば、そちらのほうが良いと考える。(委員)
→ 基本計画に内容を入れ込む際に、見やすい形で表現できるようにしたい。(事務局)
→ 資料「第3期計画への掲載事業(案)目標指標別一覧」をうまく活用したほうが、読み手にはわかりやすい。今後の編集作業の際に検討いただきたい。(委員長)

(2) 目標達成に資する事業について

- ・ 資料「第3期計画への掲載事業(案)一覧」において、各事業の実施時期をどこかに記載し

たほうがよいと考える。また、事業掲載の優先順位、事業の評価方法はどうか。市民の意見のフィードバックの仕組みを取り入れられるとよいと考える。さらに、NP0 が取り組んでいる事業は掲載していないが、引きこもり支援事業や 10 代カフェ（子ども食堂）、オレンジカフェ、放課後児童クラブ等は掲載しなくてよいのか。その他、ユニバーサルデザインやバリアフリーの観点はぜひ取り入れていただきたい。人が来たくなるまちというのは誰でもが来たくなるまちだと思う。ハードだけでなく、ソフトについても含める必要があるのではないか。（委員）

- 事業の実施時期については、基本計画書では記載させていただく。事業掲載の優先順位については、事業の区分に沿って記載する、国の補助メニューがある事業を優先的に書くという定められたルールがあるため、それに従って記載している。国の支援がない事業については、伊賀市の中で重要度の高いものから優先的に記載している 状況である。また、福祉等のさまざまな事業についてはまだ網羅できていないため、伊賀市の担当窓口を確認して整理したいと思う。居住者の福祉向上は国も重点的に整備する意向であるため、掲載事業として漏れがないか確認していきたい。ユニバーサルデザイン等については、福祉事業と絡めたうえで、誰もが住みやすいといった部分に対して、ユニバーサルデザインの理念等を根幹の考えとしたうえで整理、記載していきたい。（事務局）
- 事業をピックアップするための大きな方向性を記載しておくことで、事業の位置付け等がわかりやすくなるため、説明資料として記載してみてはどうか。また、伊賀市全体や定住自立圏を含む周辺地域の活性化と中心市街地の活性化は連動しているという観点を記載していただくことで、中心市街地だけのための計画でないことを市民にも理解していただけると思う。そういう方針的な部分も記載するとよいのではないか。（委員長）
- ・ 説明資料において、資料ごとに重複する箇所が多いため、できるだけ一つの資料にまとめていただきたい。また、全事業の中で空き家・空き店舗に関連する事業が一番多く、市の所轄課も多く存在するが、一つの部署でやるべきだと思う。さらに、説明資料において、もう少し事業ごとに大きく分類して表現したほうがよいと考える。（委員）
 - 資料の最終的な表記の仕方については見やすいように、かつ重複がないようにしていきたい。また、空き家対策も所有者に対する施策や活用、支援等様々であるため、同種のものであれば統合していくことを念頭に進めていきたい。（事務局）
 - さきほどの話は、事業を大分類できないかという話だと思う。編集作業で実現できることだと思うため、工夫いただきたい。（委員長）
- ・ 資料「第 3 期伊賀市中心市街地活性化基本計画書素案」P94 にある事業実施箇所図が完成形ということでよい。また事業実施箇所図における色の分類分けはどのように行なっているのか。（委員）
 - 素案 P94 の事業実施箇所図が完成形であり、事業 4 ～ 8 ごとに色分けをして地図上に落とし込んでいる。事業実施箇所エリアを表現する色と凡例の色は関連性が

ない状態で分かりにくくなっているため。色分けについてはわかりやすい表現方法を再考する。(事務局)

→ 伊賀市における印刷時の色分けマニュアルがあれば、それに則っていただくとよいと考える。(委員長)

→ 分かりやすさの観点としては、事業実施箇所図は紙媒体では分かりにくい。市民が活用することを想定すると、デジタル化されるとよりいいのではないかとと思う。グーグルマップやGIS等の仕組みを活用していただきたい。(委員)

- ・ 事業について第2期計画の延長のようなイメージがある。地下道の北南をつなぐ魅力的な事業のようなアイディアも出ておらず、これまでの事業を整理しているだけでは活性化は難しいのではないかと考える。この委員会には様々な団体の関係者の方々がいるため、起爆剤的なアイディアをもっと提案いただけたらよいと考える。(委員)
- ・ 現在立地している図書館の跡地をどう活用するのかが問題となっている。また、信楽古陶館も閉まったままであるため活用できないかと考えている。地下道の延伸について、地下道入口の西側が危険で、夜の遅い時間帯に不審者が出る危険もあるため、犯罪が起きやすいところを作らないようにしていただきたい。さらに、本町通りにおける道路の有効な利用について、路肩利用が緩和されているはずである。今後は、今言ったような具体的な議論に入っていきたいと考える。また、周辺地域もよくなれば、連動的に中心市街地ももっと良くなると思う。中心市街地だけにとらわれず、周遊バスを走らせたらかどうか。既存のバス会社を利用しながら実現を目指すのはいかがか。(委員)
- 事務局としての悩みは、実現性のある事業を取り上げる必要があり、検討レベルの事業を取り上げられないため、堅実な事業だけになってしまうことだと思うが、方針レベルの記載でその部分は解決できるのではないかと。例えば、道路空間活用では、全国で社会実験が実施されており、1、2週間、車を止めてにぎわい空間をつくることも行われている。継続的な事業が多く取り上げられているため、「社会実験を積極的に実施していく」というような方針の書きぶりにすれば、取り上げてよいと考える。また、多様な主体が協働してにぎわいづくりを行う方針を記載することで、計画の見え方が異なると考える。事業を詰めていくことよりも、方針をいくつかの柱で書いておくというのが重要であり、1、2年後の新たな事業が生まれる可能性をつくっておき、そこから引き出せるようにしておくことも検討いただきたい。また、小田原市では、城内を使って市民が屋台を出してにぎわいを作っていたのが印象的であった。空間・施設は公共のものを使うが、うまく開放して市民活動が展開することで、にぎわいをつくっていくことができるのではないかと。すでに伊賀市でも始まっているが、これらの活動を増やしていくことを協働の部分でしっかりと記載いただければと考える。(委員長)
- ・ 「市民夏のにぎわいフェスタ」「灯りの城下町」「城下町のおひなさん」が同じエリアで開催されていると、資料「事業実施箇所図」で表現されているが、間違っている。このような点が、資料「目標の設定について」P8の「官-民・民-民の繋がりが弱い」という事項につながっていると感じる。もっと組織間の風通しを良くすることが必要ではないかと思う。

(委員)

- 「官-民・民-民の繋がりが弱い」というのは、昨年度実施したワークショップやアンケートでの意見を集約したものである。また、庁内の検討委員会でも、行政のみではなく、民間、地域の方と協働していくことが重要だという意見が出た。方針部分でのあたりの内容を記載できればと考えている。(事務局)
- 協働という観点をもっと表に出してほしいと思う。茨木市のおにクルは、市民と一緒にできる方法を考える施設にしたいと思って取り組んでおり、その成果があったおかげで、120万人を超す来館者となっている。これらは姿勢の問題であり、一緒に考え、動き、悩みという姿勢を持つことができれば、伊賀市の中心市街地の中でもっと面白いことが沸き上がるのではないかと思う。市役所がすべて取り組むのではなく、場所や機会を提供し、そこに乗っかってくださる方と一緒に作りあげていくことをどんどん広げていくと、もっと面白いまちなかができると考える。福祉の分野でもNPOや市民団体が積極的に動いているため、そのような方をパートナーとして寄り添っていく姿勢が市役所があれば、より盛り上がっていくと考える。(委員長)
- ・ 昔は中心市街地に働く場所がたくさんあったが、どんどん減少している。企業を中心市街地に呼び込んで働く場所を作らなければ、中心市街地活性化は難しいと思うため、企業誘致をメニューに入れた方がよいと考える。空き地、空き店舗を居住や若者の起業ですべて補うのは難しいと思う。この点を再考いただきたい。(委員)
- 企業誘致は、大きな企業のオフィスだけではないと思う。例えば、徳島県の神山町は空き家をリノベーションしたサテライトオフィスを作り、企業をうまく誘致している。中心市街地でも居住者誘致だけではなく、サテライトオフィス的な誘致もできると思う。空き家・空き店舗活用事業のなかにこのような視点も入れていただくことで、事業名は変えず、内容自体を変えることができる可能性がある。検討いただきたい。(委員長)

(3) 目標指標・目標数値の設定について

- ・ 目標指標について、4つの目標指標がいくつかの事業で紐づけられているが、これらの指標だけでよいのか疑問である。例えば、上野天神祭の事業については、文化の伝承や後継者の育成等が課題であり、応援団、ボランティアの人数を増やすことも目標指標になると考える。すべての事業で見直すことは大変だと思うが、事業ごとに目標指標を考えることは重要だと考える。(委員)
- 事業に関わる人数の変化を可視化することが重要というご意見だと思う。あらゆる事業において重要であるため、応援する人、関わる人の記載は工夫できないかと考える。(委員)
- どれだけの市民・事業者の方々が自分たちの手で盛り上げてくださっているか、という人数の積み上げが必要ではないか。積み上げるといふ努力の結果が、事業の担当課の「自分も関わっていないといけない」という機運上昇にもつながると思う。検討いただきたい。(委員長)

(4) 計画書素案について

- ・ 資料「第3期伊賀市中心市街地活性化基本計画書素案」の事項4～8における事業について、現状分析や必要性の部分をこれから書き込んでいくと思うが、地下道の整備や上野図書館の跡地活用など、市民にも夢が持てるような事業・説明をしっかりと書き込んでほしい。この部分の記載がないと、これまでの事業の延長上でこじんまりしている印象があり、夢が持てないのではと思う。さらに、計59個の事業が掲載されているが、このうち伊賀市が実施主体となっている事業が過半数を超えている。民間、事業者、地域の皆さんと一緒にやるまちづくりにならないのではと心配している。協働の事業はしっかり記載していただきたい。(委員)
 - 例えば、資料「第3期伊賀市中心市街地活性化基本計画書素案」P46の4章タイトルだが、もっとわくわくするタイトルに変更することができないか。(委員長)
 - 国に確認させていただく。(事務局)
 - 一言で言うと、P46のタイトルはハードな公共整備ということであるため、もっとわかりやすく、ワクワクするタイトルがつけられるのであれば変更いただきたい。また、P48の空き家対策事業において、産業振興の観点からも空き家対策がよいという話もいただいたため、このあたりの事業内容の書きぶりもうまく伝えられるような形にしていいただければと考える。見栄えの話も含めて、書きぶりもわくわくするような、市民にとっても読んでみたいと思える工夫を期待している。(委員長)

(5) その他

- ・ 伊賀市商工会は旧上野市ではない地域が集まった商工会になっており、中心市街地以外の地域の活性化も図らないといけないという意見を伺えたことはよかった。その中で、宮崎委員の意見はワクワクするものであり、道路、公園、駐車場の整備はまだまだ道半ばであり、進めている段階だということを知ることができた。今後は、国からの支援も考慮し、市全体で進める事業として見えるようになるのとよいのではと考えている。(委員)
 - 連携、ネットワークという観点がもっともっと表に出た方がよい。分散している資源をうまく活用して、来訪者を呼び込んでいく戦略も重要になると思う。中心市街地への来訪者を周辺地域へどう誘導するか、周辺地域にきた来訪者をどう中心市街地に誘導するか、という両方の観点があると思う。定住自立圏の構想も担当させてもらっているが、ポテンシャルは非常に強い地域だと思っているため、うまく繋いでいく戦略があれば、もっと関西圏から来訪者を呼べると考える。(委員長)
- ・ 資料「第3期伊賀市中心市街地活性化基本計画書素案」の事業一覧の内容を、次回の策定委員会までにアップデートするために、実施主体を伊賀市のみではなく、関連する主体の記載を加えることが必要だと考える。また、「誰が、いつ、何を、どこまでやるのか」が見えてこないため、少なくとも次回の委員会ではこの観点の情報を含めて記載いただきたい。(委員)
 - 実施主体としていくつも名前が挙がっているが、これらを一覧にすると動いている主

体についてアピールすることができる。まずはその整理から始めるのはいかがか。ご検討いただきたい。(委員長)

- ・ ユネスコ無形文化遺産上野天神祭のダンジリ行事には鬼行列も含むため、その部分について記載いただきたい。(委員)

4. 今後の予定について

- ・ 第10回委員会 令和6年 9月20日(金) 14:00
- ・ 第11回委員会 令和6年 11月21日(木) 10:00

以上